CASBEE広島における重点項目の環境配慮設計概要

CASBEE-広島 2014年版

株式会社熊平製作所本館新築工事

※下表の空欄に環境配慮設計の概要をコメントしてください。

配　慮　項　目	評価点	重み係数	内　訳							
■1.「地球温暖化対策」の推進										
1.1　建物の熱負荷抑制										
(コメント)　※配慮事項を簡潔に記載してください	3.0	0.59	Q1	室内環境	2	温熱環境	2.1	室温制御	2	外皮性能
Low-Eガラスの採用、外壁の断熱により高い外皮性能を確保。	0.0	0.00								
	5.0	0.41	LR1	エネルギー	1	建物の熱負荷抑制				
小計	3.8	0.07								
1.2　自然エネルギーの利用										
(コメント)　※配慮事項を簡潔に記載してください	3.0	1.00	LR1	エネルギー	2	自然ｴﾈﾙｷﾞｰ利用				
小計	3.0	0.06								
1.3　設備システムの高効率化										
(コメント)　※配慮事項を簡潔に記載してください。□	4.1	1.00	LR1	エネルギー	3	設備システムの高効率化				
LED照明の採用。全熱交換器の採用										
小計	4.1	0.28								
1.4　設備システムの効率的運用										
(コメント)　※配慮事項を簡潔に記載してください	3.0	0.50	LR1	エネルギー	4	効率的運用	4.1	モニタリング		
	3.0	0.50	LR1	エネルギー	4	効率的運用	4.2	運用管理体制		
小計	3.0	0.11								
1.5　資源・マテリアル対策										
(コメント)　※配慮事項を簡潔に記載してください。□	4.0	0.10	LR2	資源・マテリアル	1	水資源保護	1.1	節水		
節水器具の採用、リサイクル材の採用。	3.0	0.11	LR2	資源・マテリアル	1	水資源保護	1.2	雨水利用・雑排水再利用	1	雨水利用システム導入の有無
	3.0	0.05	LR2	資源・マテリアル	1	水資源保護	1.2	雨水利用・雑排水再利用	2	雑排水再利システム導入の有無
	3.0	0.08	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.1	材料使用量の削減		
	3.0	0.15	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.2	既存建築躯体等の継続使用		
	3.0	0.15	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用		
	4.0	0.15	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		
	2.0	0.08	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.5	持続可能な森林から産出された木材		
	5.0	0.15	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.6	部材の再利用可能性向上への取組み		
小計	3.5	0.34								
1.6　ライフサイクルCO2排出率										
(コメント)　※配慮事項を簡潔に記載してください	3.3	1.00	LR3	敷地外環境	1	地球温暖化への配慮				
LED照明や全熱交換器の採用により、運用段階でのCO2排出量を低減。										
小計	3.3	0.14								
1.「地球温暖化対策」の推進の評価	3.6	0.72								
■2.「ヒートアイランド対策」の推進										
2.1　温熱環境の向上										
(コメント)　※配慮事項を簡潔に記載してください。	3.0	0.49	Q3	室外環境（敷地内）	1	生物環境の保全と創出				
	3.0	0.24	Q3	室外環境（敷地内）	3	地域性・アメニティへの配慮	3.2	敷地内温熱環境の向上		
	2.0	0.27	LR3	敷地外環境	2	地域環境への配慮	2.2	温熱環境悪化の改善		
小計	2.7	0.97								
2.2　交通負荷抑制										
(コメント)　※配慮事項を簡潔に記載してください。	3.0	1.00	LR3	敷地外環境	2	地域環境への配慮	2.3	地域インフラへの負荷抑制	3	交通負荷抑制
小計	3.0	0.03								
2.「ﾋｰﾄｱｲﾗﾝﾄﾞ対策」の推進の評価	2.7	0.19								
■3.「長寿命化対策」の推進										
3.1　耐用性の向上										
(コメント)　※配慮事項を簡潔に記載してください。	4.0	0.18	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.1	耐震・免震	1	耐震性
耐震性を建築基準法の1.25倍とした。	3.0	0.27	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.1	耐震・免震	2	免震・制振性能
外壁材、内装材、設備配管について耐用性の高い材料を選定。	3.0	0.11	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数	1	躯体材料の耐用年数
	5.0	0.11	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数	2	外壁仕上げ材の補修必要間隔
	4.0	0.05	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数	3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔
	3.0	0.05	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数	4	空調換気ダクトの更新必要間隔
	5.0	0.11	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数	5	空調・給排水配管の更新必要間隔
	3.0	0.11	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数	6	主要設備機器の更新必要間隔
小計	3.7	0.58								
3.2　設備の更新性										
(コメント)　※設計の計画上特段に配慮した事項を記載してください。	3.0	0.20	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性	1	空調配管の更新性
	3.0	0.20	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性	2	給排水管の更新性
	3.0	0.10	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性	3	電気配線の更新性
	3.0	0.10	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性	4	通信配線の更新性
	3.0	0.20	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性	5	設備機器の更新性
	3.0	0.20	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性	6	バックアップスペースの確保
小計	3.0	0.42								
3.「長寿命化対策」の推進の平均点（上記2項目）	3.4	0.09								
■重点項目の総平均（上記3項目）	3.4									